

おかえり



特集

◆小さな地域から世界へ発信

進取果敢に取り組む神楽人「道川神楽社中」

◆交流から滞在、そして定住へ

- 民泊・日帰り体験
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業

小さな地域から世界へ発信

進取果敢に取り組む神楽人 「道川神楽社中」

平成30年2月。益田市匹見町道川を拠点に活動する道川神楽社中（河本亮代表、54）が、石見神楽の団体で初めて、全編英語の口上で公演に挑んだ。石見神楽が日本遺産に認定されたのを追い風に、次の一手も計画しており、少数精鋭の団員たちが、山間の小さな地域から世界へと、大きな発信をしようとしている。

英語神楽に初挑戦

「Yes, your Highness（畏まつて候）」。匹見を訪れたドイツ人学生らを前に、演目『日本武尊』を英訳口上で「初公演」。締太鼓が最後の一打ちをすると、静寂な会場に割れんばかりの拍手が響いた。英語神楽への挑戦は、匹見に訪れた外国人ツアー客を前に幾度か



ドイツ人学生らを前に英訳口上で『日本武尊』を披露

神楽を舞った際、「反応が今一つ」だったため、神楽の魅力をより理解してもらおうと、市内在住で舞台製作・通訳者の澄川環さん(40)に、『日本武尊』『天神』の口上の英訳と指導を依頼。「初公演」が5か月後に迫る中、先例のない取組に戸惑いながらも、各人各様死に物狂いで英訳の口上を覚え、合同稽古を重ねて当日を迎えた。『日本武尊』

で最も長い口上を担った大谷寿一さん(63)は、「英語の意味が分からず本当に苦労した。現在も忘れないうちに車の運転をしながら復習している」と話す。

新生・道川神楽社中の歴史

道川の人口は約120名。少子高齢化が進む。道川神楽社中（以下、道川社中）の団員は、20〜80代まで19名。うち主力メンバーは

10名ほど。個性際立つ芸風で観客を魅了する。進取果敢な取組の原動力はどこにあるのだろうか。

道川社中は、明治40年頃に六調子系神楽として結成するが、経営悪化により10年余で解散。昭和23年の下道川小学校の改築竣工式で、20歳前後の若者有志が、神楽経験のある先輩たちに学んで『塵輪』を舞ったところ評判に。その際、

染めの衣装を借りた縁で、節芝居や神楽など芸事に精通していた旧真砂村（現同市下波田町）の齋藤類次さん（故人）から、道川の青木一さん（故人）が数ある演目の口上をノートに聞き留めた。独特な口上は現在まで語り継がれ、道川社中の「財産」になっている。

この台本を基に27年、齋藤さんから八調子系神楽を習い、寄付金や出資金を元手に衣装道具を一式揃え、青木さんを代表に28年、新生・道川社中が本格始動した。

当時を知る伝説の団員が健在だ。

『塵輪』

を舞った大田武志さん(87)は、「練



青木一さんが聞き留めた台本（昭和24年9月初日）

習して形になると、類次さんに指導してもらった」と回想。「遊びと言えば戦争ごっこか神楽の真似事」と話す大谷隆敏さん(86)曰く、神楽は貴重な娯楽で、益過ぎから近所の倉庫や民家で練習が始まると、団子や角寿司、しば団子持参で地元の人が詰めかけた。鼠谷清さん(76)は、「30年代に当時一式25万で購入した特注の『鍾馗』の衣装が、入澤兄弟（耕二郎さん・昭文さん、共に故人）の息の合う舞とともに中国地方で評判になり、道川社中の名が広く知れ渡った」と言う。この頃は衣装も少なく着回し舞っていたため、「恥ずかしい思いをした」。長く代表を務めた鼠谷さんは、「若手に入団してもらうため、せめて衣装は良いものをと、寄付は全て衣装代に充てた」と言う。

和太鼓と神楽の初融合

複数の団員から、「今福さんと20年間共演してきた経験は大きい」という声を聞いた。

道川出身の和太鼓奏者、今福優さん(63)。幼少期から道川の神楽に慣れ親しみ、神楽は今福さんの舞台芸能の根幹をなす。

37歳で帰郷、独立。目指す方向

が分からなくなった際、民俗学者・宮本常一氏の「文化は一人で歩くな」の言葉に気づきを得る。今福さんは、4つの太鼓が核となる演目『神祇太鼓』を舞台用アレンジ。中学時代の野球指導者で、社中代表だった鼠谷さんに、共演を相談する。

「団員から賛否両論の声が続出し今福さんとの衝突もあったが、互いが切磋琢磨し、前進することに努めた」と鼠谷さん。振り返れば、「プロ集団に交じり、ステージ上でリハーサルと実践を重ねた経験が、プロ意識を持って観客に魅せることを学んだ」と河本代表は感謝する。



今福さんと共演した『新神祇太鼓』(編曲/今福優)(©やのきち)

今福さんとの共演で、県外で大舞台を踏み、舞台関係者との出会いや時間調整の仕方が鍛えられ、その後の道川社中の特異性や英語神楽への挑戦力につながっていく。

受け継がれる伝統

現在より人口が多かった昭和30年前後も団員数は十分でなく、地域の若手に声をかけては増やした。娯楽がないことも手伝って、神楽に没頭する傾向が強かった。

「神楽をやっているおっちゃんに憧れ、いつか神楽をやりたい」という世代も生まれた。栗栖史生さん(45)は、社会人となり切望の入団を果たすと、「衣装を着たり面を被れることが喜び」だった。憧れのおっちゃんへの指導は厳しく、舞っている途中で何度も制止され、指摘を受けた。「泣くような思いだった」。厳しさは神楽だけではなく、「衣装の畳み方や人との接し方、プロ意識も学んだ」と大谷佳司さん(42)は振り返る。

若い芽も育つ。大谷光生さん(15)、栗栖和虹さん(15)、大谷奏真さん(13)、大谷天翔さん(13)。道川から市立匹見中学校に通う4人は、小学1年から河本代表に神楽指導を受けており、ここ数年、『大蛇』の蛇や、

囃子など、大人に交じって地元の行事に出演する。

4人全員の父(母)は道川社中の団員で、神楽の話題で食卓を囲むことも。子どもたちの目には、「社中のみんなは仲が良く」「この演目の、この人がカッコいい」という憧れの存在がいて、4人も「将来は入団したい」という夢を持っている。

そんな中学生たちの舞を観て、「道川社中の上手さは、ここに育ち、伝統を守ってきた血にある」と確信する堂本英里さん(47)は、今福さんが主宰する和太鼓集団「今福座」の一人だ。舞台で『恵比須』の大黒を演じる上で、知見や技術を得るため、道川社中の門を叩いた。入団から16年。「手取り足取り指導してもらい、大黒をはじめ笛や舞の所作を身につけることができた」だけでなく、「石見神楽の文化を肌で感じられ、感謝しかない」と話す。

第三の進展

令和2年。道川社中は、代表演目『大蛇』の口上英訳と公演に挑戦する。河本代表は「ストーリーが分かりやすく、見た目も派手。沢山の外国人に匹見を訪れてほし

い」と願う。

匹見町在住で中国地方神楽談話会会長の渡邊友千代さん(73)は、「英語神楽の取組は、石見神楽史の中で、第三の進展」の代表ともいえる」と評する。

一線を退いた先輩たちは、後輩たちを温かく見守っている。「平素の人間関係を大切に」「研鑽を積み」「地域外と連携し」「英語を強みに」「社中の灯を消さないでほしい」と。「人手が足りなければ、いつでも舞っちゃるで」と心強い言葉もあった。

先輩や地域から期待され、頼りにされている道川社中は、一神楽団体であると同時に、この地域になくてはならない存在でもある。



親子で「大江山」の囃子を担当(写真左側)

～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ぐりお わさまる ゆずりん

ちよこつと匹見を体験したい方は… (令和2年3月末現在の情報です。)

◇民泊



みよし 民泊「三四四」

- 体験内容
料理体験 (押し寿司、巻寿司、郷土料理「うずめ飯」、手打ちそば、餅)、布ぞり作り等
- 料金
1泊2食付7,000円 (食事は共同調理) ※体験料は別途必要
- 住所・連絡先
益田市匹見町道川イ214 tel/fax 0856-58-0020

◇日帰り体験



うつだに 「内谷とちの郷」

- 体験内容
料理体験 (わさび漬け、こんにやく、とちもち)、わさび収穫体験
- 料金
直接お問い合わせ下さい。
- 住所・連絡先
益田市匹見町石谷口561 tel/fax 0856-56-0589

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

令和2年3月末現在

| 施設区分 | 戸数(空き戸数) | 使用料(月額) |
|----------|----------|---------|
| 単身用(1DK) | 2(0) | 8,100円 |
| 世帯用(3DK) | 2(1) | 16,000円 |

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

//// 空き家に関する各種事業 ////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域振興課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0302 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>